

令和三年度
日本伝統俳句協会 関西支部大会 入選句

山西商平選

〈特選一〇三席〉

庭師来て噴水修理して帰る

稲畑汀子

歌碑と句碑つなぎて風の新樹道

松田吉上

青蘆の中少年の日曜日

藤井啓子

〈入選〉

下闇の歩は鶴塚に尽きにけり

立村霜衣

虚子像の威の自づから青嵐

片岡東子

放たれて子等のきらめく水遊

高橋純子

虚子を訪ひ潤一郎を訪ふ五月

田中祥子

家事多忙新樹晴てふ加勢あり

山崎貴子

筈も無き椿子に逢ふ五月闇

山之口倫子

どこも開け放つ家居といふ薄暑

稲畑汀子

夏めきてひとつ小振りの旅鞆

湯川晶月

風薫る人待ち顔の木椅子かな

大森光栄子

業平も美穂女も逝きて五月逝く

寺杣啓子

江戸の世の矢立涼しく拝す館

田村恵津子

言問へど惑ふ句の道業平忌

槌橋眞美

水田むつみ選

〈特選一〜三席〉

虚子館へ襟を正せば汗の引く

米澤悦子

記念樹の涼しき影に迎へられ

田中祥子

海からも山からも風薫る街

池田雅かず

〈入選〉

下闇の歩は鶴塚に尽きにけり

立村霜衣

まくなぎや鶴塚祀るむかしあり

山村千恵子

放たれて子等のきらめく水遊

高橋純子

せせらぎに合はせる歩調風薫る

山田 天

薔薇溢れしめ深窓の芦屋住

古賀しぐれ

庭師来て噴水修理して帰る

稲畑汀子

夏めきてひとつ小振りの旅鞆

湯川晶月

服濡れてより大胆に水遊

米澤悦子

薫風や虚子の懐深き館

澤田鈴子

虚子を訪ひ潤一郎を訪ふ五月

田中祥子

六甲をはみ出し虚子館まで緑

大久保樹

学びたき人に虚子館梅雨晴るる

田中由子

黒川悦子選

〈特選一〜三席〉

風の来て日ざし飛び散る柿若葉

水田むつみ

泰山木雲になりたき一花かな

大森光荣子

ヨットの帆芦屋らしさもこの辺り

海輪久子

〈入選〉

下闇の歩は鶴塚に尽きにけり

立村霜衣

俳磚に日なた日かげの若葉風

吉村幸子

洗はれし樹々の息づく梅雨晴間

山口澄子

卯の花をつけたるままに傘たたむ

戸田祐一

薔薇溢れしめ深窓の芦屋住

古賀しぐれ

六甲へ雲走り出す大南風

徳澤南風子

石組のモダンな句碑や緑差す

河辺さち子

ジャンプして降り立つ川原夏の草

大山紀子

庭師来て噴水修理して帰る

稲畑汀子

俳磚の前にしあれば蚊を打たず

山田佳音

太陽に向かふ階段立葵

大久保樹

堰音の白き昂り夏の川

河村久美子

酒井湧水選

〈特選一〇三席〉

屋敷街浜の名残の松涼し
古賀しぐれ
青蘆の中少年の日曜日
藤井啓子
教会の庭守る人に風五月
立村霜衣

〈入選〉

青蔦の余白許さぬ勢かな
高橋純子
まくなぎや鶴塚祀るむかしあり
山村千恵子
十葉の白き十字を自戒とす
奥野千草
落款のくれなる涼し虚子の軸
松田吉上
スタッフは九時半集合館薄暑
近藤六健
歌碑と句碑つなぎて風の新樹道
松田吉上
川遊び小さき平和の夏帽子
鈴木ひとみ
靴揃へ子等いつせいに夏の海
日比野勝
石垣の歴史の上の姫女苑
小林昌子
新緑の六甲に始まる水の旅
寺杣啓子
江戸の世の矢立涼しく拝す館
田村恵津子
ペディキュアの眩しき芦屋川薄暑
有子山俊之

令和三年五月三十日（日） 於…虚子記念文学館

主催 日本伝統俳句協会関西支部

後援 芦屋市、芦屋市教育委員会、虚子記念文学館